

鳥海山にブナを植える会

会報No. 48号 2011年9月
発行者：須田和夫

事務局：018-0133 秋田県にかほ市象潟町関字有耶無耶ノ関 3 (須田方) TEL・FAX：0184-43-3549

もっとブナについて知ろう — 再生力のシンボル「アガリコ」

事務局 須藤 弘

鳥海山にブナを植える会も今年で17年目となり、諸先輩が築いてきた活動の足跡を汚さず頑張っていきたいと思っております。まだまだ到らない点が多く、後からそうだったのかと気付かされることも多々ありました。当たり前前に思っていたことが実は大事なことだったと知る楽しさを得ることもできました。

昨年まで植えたブナの木は29,982本に達し、今年度は確実に30,000本の大台に載ります。17年もの長い月日の積み重ねが今年30,000本となります。大いに祝いたいものです。今まで植えたブナの苗は何パーセント元気に育っていることでしょうか。確認して見たいと思っております。

人間はブナ林から色々な物を得て生活をしていました。薪や炭などの燃料としても利用してきました。大木になったブナは薪や炭としては利用しにくいので、適度な太さの若いブナの木が伐られました。伐採はソリで運び出しやすいように、雪が固く締まった2月、それでもまだ積雪が2メートルもある頃に行いました。

ブナの若い木は途中で伐りますと、切り口から新しい芽、ヒコバエ（孫生え）が出てきます。これが数十年すると再び伐採できるまでに成長します。何度も何度も伐られたブナはごつごつしたコブだらけの異様な形をした樹になっていきます。そんなブナの樹のことを「アガリコ」と呼ぶのだそうです。醜い姿をしているために森の奥に隠れるように生きていました。

しかし、実は「アガリコ」はブナの再生能力のすごさを現した再生力のシンボルなのでした。

第17回（30,000本記念）植樹会のお知らせ

にかほ市象潟町「鳥海山・霊峰公園」にブナの植樹を行ないます

日 時： 2011年 10月22日（土）

受 付： 8：45 ～ 9：15

集合場所： にかほ市役所・象潟庁舎 西側駐車場に集合

- ・ 受付順に班編成 ・ 開会式、植樹方法の説明
- ・ 開会式後、霊峰公園植林地へ移動（バスを用意しています）

持ち物： 軍手、鍬、唐鍬、剣先スコップ、昼食、etc.

懇親会： 植樹終了後、霊峰公園にて恒例の「なべっこ会」を行ないます。

- ・ ゴミを出さないためのエコ運動にご協力ください。
(マイハシ、マイドングリの持参をお願い致します。)
- ・ 午後2時頃終了。
- ・ 会員以外の方も大歓迎。多数のご参加をお待ちしています。

※ 悪天候の場合の問い合わせ先： 43-3549 (須田会長宅)

43-3471 (須藤事務局宅)

台風、雷雨の場合は
10月23日(日)に変更

2011年 会員からの「ひとことメッセージ」より (Part-2)

<今年頂いた皆さんの「ひとことメッセージ」から、一部をご紹介します。> (敬称略)

- ◆ 会報をいつもありがとうございます。丹精込めて植えられたブナが元気に育ってくれることを祈っております。(八王子市：田口シゲ子)
- ◆ いつかブナの苗を植えに伺いたいなと会報を拝見しながら願っています。応援しています。(東京昭島市：鈴木佐江子)
- ◆ 活動お疲れ様です。しばらく作業に参加しておらず申し訳ありません。子供がもう少し大きくなったら参加したいと思います。(にかほ市象潟町：高橋かおり)
- ◆ ありがとうございます。植樹会では汗ばんで爽やかな気分になります。(にかほ市院内：佐々木俊明)
- ◆ いつもご苦勞様です。会費だけの会員で申し訳ありません。その内お手伝いにとっておりますが…。(由利本荘市：大橋洋子)
- ◆ 懐かしい友の文で、森を育ててくれる人たちのお陰で海が生きているんですね。ありがとうございます。地元でも豊かな森のために頑張りたいと思います。(新潟県柏崎市：品田美好)
- ◆ 植樹後の心地よい疲れを感じておられるであろう皆様に感謝申し上げます。(新潟県三条市：外山いそ子)
- ◆ 小生は旧西滝沢村の出身です。貴会の事業は将来に向けて実に有難いことです。「ふるさとの山に向かいて云うことなし。ふるさとの山はありがたきかな。」(石川啄木)
(秋田市：古川泰全)
- ◆ なかなかそちらへは行かれません、どうか御地の皆様頑張って下さい。(静岡市：藤原もと子)
- ◆ ブナの植樹3万本は素晴らしい実績です。更に前進することを期待しております。(秋田市：斎藤 創)
- ◆ 会報47号に掲載して戴き感謝します。甲府の浅川さんと共に、横森さんとの絆で結ばれた者として貴会を応援いたします。こんなことしか出来ませんがよろしく。(山梨県甲州市勝沼：原 庚徳)
- ◆ 今年も鳥海山にブナを植える会の皆様ご苦勞様です。私は何もお手伝い出来ませんが皆様に感謝しております。(千葉市：三橋政治)
- ◆ みなさんと一緒のブナ植えの作業が待ち遠しいです。その前の大変な作業本当にご苦勞様です。(にかほ市象潟町：伊東温子)
- ◆ 縁あって鳥海山(版画“鳥海 海景”)を部屋に飾るものです。会報47号拝見して素晴らしい大自然鳥海山に立ち向かう強い意志を感じ嬉しくなります。ありがとうございます。会費遅くなり申し訳ありません。苗圃の雑草取り、9月24日を手帳に記入しましたが…。(杉並区：川田秀司)
- ◆ なかなか参加出来ず、夫と同様、会報47号の「会費納入のお願い」に、『会の活動は継続できます。ぜひ皆様のお力をお貸しください』とあり、心が救われる思いでした。(由利本荘市：阿部朋子・順一)

- ◆ この度の震災（津波）で、気仙沼の畠山重篤氏の被災の記事を読み、牙をむいた自然の前で立ち尽くす氏の横顔に言葉が見つかりません。
(にかほ市金浦：佐々木鈴子)
- ◆ おいしい水をいただいている市民としてお手伝いに と思うのですが…
今年もブナを植えに参加します。
(にかほ市象潟町：小島えみ子)
- ◆ 須田会長のお人柄の中、役員皆様のあたたかい心配り会員としてとても心にしみるものが伝わってまいります。いつも頭が下がります。
(秋田市：永瀬洋子)
- ◆ 役員の皆様方には、ご苦勞をおかけしており、心苦しく思っています。行事等に家庭の事情を調整しながら参加したいと思っていますのでこれからもよろしくお願い致します。
(由利本荘市：石垣とみ子)
- ◆ 植樹したブナの木を見守っていくのが、行楽を兼ねてたずねるのが楽しみです。
(酒田市：今野ちや子)
- ◆ 作業や活動に参加出来ないのですが、会費だけでもと思います。少ないのですが、送金させていただきます。
(にかほ市象潟町：三浦哲雄)
- ◆ 新緑のブナ林はどんなにか美しいでしょう。皆様のご尽力に敬意を表します。ほんの少しで申し訳ございませんが、会費を送らせていただきます。
(東京文京区：林 弘枝)
- ◆ ガレキの山となった風景の一方で、こういう運動が継続していくことを心強く思います。
(奈良県生駒市：米嶋順子)
- ◆ 貴重な活動の通信いつも有難うございます。
(湯沢市：富谷 弘)

2011 年度 「育林の日」のようす 6月11日（土）



6月11日（土）にかほ市象潟町の鳥海山「霊峰公園」近くの2009年度植樹地で、当会の会員25名、TDK(株)134名が参加して、草刈りと施肥作業を行いました。

この日は朝からあいにくの雨模様でしたが、怪我や事故の無いように注意しながら、ブナの苗に絡みついた蔓を外し、雪で倒れかけた苗を立て直し、浮いた根の回りを踏みしめて「元気に育てよ」と声をかけながら心地よい汗を流しました。作業が終了する頃には雨も上がってくれました。

大仙市から育林作業に参加された小泉秀樹さんから寄稿いただきました。（次ページ）

退職し山行が生活の一部となり、各地の山を登っているので、「どこの山が一番良かった？」と聞かれることが多い。雪、水、植生、標高、山容それに自宅からのアクセスの良さなどから先ず鳥海山が脳裏に浮かぶ。だが、いつまでも体力が続くわけではないので、いずれ山行回数を減らし、他の活動へシフトする必要があるだろうと考えていた。そんな折り、本会に出会った。

お気に入りの鳥海山でブナを植える活動に参加できるなら、これほど贅沢なことはない。「山高きが故に貴からず、木あるを以て貴しと為す。」木があつてこそその山であり、それも日本海沿岸から東北の豪雪地帯の山ではブナがいい。手入れの悪いスギの人工林はゴメンだ。これまで関東や中部地方の山々へ7号線経由で出かけていたので、大曲から象潟までの運転も苦にならない。

本会の活動歴はまだ3年目だが、天気にも恵まれてきた。しかし今年の「育林の日」は初めて雨具を着けての作業となった。梅雨の最中、降って当たり前。濡れてしまえば汗も雨も同じだ。霊峰公園駐車場上部のブナ植樹地で、下刈りと追肥の二手に分かれて作業。今回は追肥を担当することになった。肥料袋からバケツに小分けし、若木の根元に施肥、軽く覆土する。また、雪で折れかかっている何本かの木を養生する。この日は東北ペプシコーラ販売の若い会員の働きで作業がはかどり、中高年会員は少し楽をさせてもらった。

作業終了間際にうれしい発見があつた。「ササバギンラン（笹葉銀蘭）」というラン科の花が周辺に点在していたことである。里山の荒廃で減少傾向にあると言われる中での生育は、私たちの作業に対するご褒美と言えよう。将来、群落になることをみんなで話題にしながらこの日の作業を終えた。

2011年度 「苗圃の記録」

育苗部長 繁野 正俱

3月の「育苗の日」及び4月から9月までの毎月最終土曜日に、参加できる人たちで苗圃の整備や草取りを行っています。今号では雪の残る3月の整備作業から7月の夏の盛りの草取りまでをお伝えします。参加された皆さんが汗を流しているようすを想像してみてください。

◆ 3月23日（天気＝曇り）「育苗の日のための 耕起作業」 参加者＝1名



会長がトラクターで圃場の耕起をしてくれました。ブナ達はまだ冬眠中でした。



◆ 3月26日（天気＝曇り時々雪）「育苗の日」 参加者＝23名



今年も雪に悩まされました。前夜降った雪で一面真っ白の苗圃です。焚き火と会員の皆さんの熱気で雪も溶け、苗の手入れをしました。中央に植えられていたミズナラの苗57本を移動しました。作業終了後一服していましたが雲行きが怪しくなり、10時半には早々に解散しました。東日本大震災の影響で遠くの方の参加はありませんでしたが、たくさんの方々が今年の初作業に集まってくれました。ありがとう！



(左上：佐々木皓史会員の育てたブナの苗15本も移植しました。)

(右上：『今年もさび(寒い)なあー』休憩時には焚き火で暖を取りながらがんばりました。)

◆ 4月30日（天気＝晴れ）「草取りの日」 参加者＝16名



今年の春はなかなか気温が上がりません。畑の雑草も成長が遅い感じです。しかし、確実に芽を出し、ようすをうかがっていました。そこで、今回も寒さ対策の常套手段、焚き火が強い味方をしてくれ、頑張りました。

マルチシートの間隙から顔を出し成長していく雑草たち。これぞ『元祖・雑草魂』と言うなかなかのしたたか者です。 →



◆ 5月28日(天気=小雨)「草取りの日」 参加者=11名



お天气が悪いのに、皆さんよく頑張って下さいました。先月あんなにきれいにしたのに、雑草たちの元気なこと、ブナ達も負けではありませんが、うっとうしい限りでした。こんなに雑草が生い茂っていても、ブナたちはすくすくと元気に成長していました。

←雨にも負けず、雑草にも負けず…
雨具を着込んでの作業でした。

◆ 6月25日(天気=曇り)「草取りの日」 参加者=13名



前日の集中豪雨騒ぎで、雨を心配しましたが、日頃の行いが良く、開始時には雨も止んでくれました。今月は雨が少ないと思っていたのですが、それを取り返すかのような昨日の雨、雑草もブナ達も勢いよく茂っていました。



皆さん思い思いの体勢で作業しています。→
「あー、腰が痛くなってきたー。」

それでも、気になるのは隣のジャガイモ畑。
「来月には…」
「んだ、楽しみだな」



「採りたてのジャガイモは
うめえぞー」

◆ 7月30日(天気=晴れ)「草取りの日」 参加者=17名



←予想していたとはいえ、この草原。

「夏草や強者どもが、草取りだ！」こんな言葉を言いたくなるほど雑草たちの勢いは盛んですが、今回は天気にも恵まれ、心地よい汗を流しました。最後に皆さん楽しみにしていた「ジャガイモ掘り」も行われ、無事終了しました。

<7月30日の作業風景>



上：参加した皆さんは雑草との戦いに少しもひるむことなく、闘志満々で作業しました。

<作業後の後はこんなにさっぱり>



上：「どうです、きれいになったでしょう！」
6ページの作業前と比べてみてください。

<いこいの時間>



疲れを癒す休憩の談話会。
それぞれの情報交換や、出来事などをワイワイ、ガヤガヤと…

<作業の後にジャガイモ掘り>



これは参加した人だけが味わえる『特別なごほうび』です。

雪解け春のころ、前号で「植樹活動に支えられた友人の命」として届いた故森万佐子さんについての原稿を編集集中に、森さんの一周忌を機にとご遺族から届いた温かいご浄財にはあらためて森会員の想いの深さを感じ、胸を熱くしました。

森万佐子さんについては、かねてより寄稿者である繁野さんから伺っており、本会に寄せる深い思いと、鳥海山のブナの再生への篤い思いがひしひしと伝わっておりました。

永い闘病とリハビリに向かい合いながら本会を支えてくれた森さんに心から感謝申し上げます。そして天国で新たな旅路を歩む森さん、これからも見守っていて下さい。

私達はこれからも百年後、二百年後の鳥海山にブナの森が再生出来ることを願いながらコツコツと活動を継続することに努めます。安らかに。

—会費納入のお願い—

「鳥海山にブナを植える会」の活動は、皆様からの会費により成り立っております。遠くにお住いの会員の中には植樹や施肥、草取りなどの作業になかなか参加できない方もいらっしゃると思います。中には植樹会に参加できないので申し訳ないから退会したいとおっしゃる方もおられます。

しかし、会費という形でご支援・ご協力を続けていただくことができればこそ、会の活動は継続できます。ぜひ皆様のお力をお貸しください。

また、この会がさらに前進し続けることが出来るように、あなたのお近くのご友人、お知り合いの方を「鳥海山にブナを植える会」にお誘いください。

会計 松本小三郎

—編集後記—

◆今年、東日本大震災と原発事故。更に、新潟・福島豪雨や台風12号による土砂災害や河川の氾濫。一週間で半年分の雨が降るなんて、まるで日本が熱帯雨林地方になったようです。そんな何が起きるか分からない時代ですが、鳥海山にブナを植える会は今年、設立17年目にして30,000本の記念すべき植樹会を迎えます。多額の助成金を受けて大動員して年に数万本を植えている団体もあるようですが、私たちは地道にコツコツと植え続けています。これが会の信念、初心に基づいた活動です。こんなやり方があっても良いのではないかと考えています。

◆今号は、会の活動がただ木を植えるだけでなく、年間を通して活動していることを皆さんにお知らせしたくて、繁野正俱(しげの まさとも)育苗部長の日記「苗圃の記録」をお借りして特集を組んでみました。お陰さまで見応えのある会報になったと思います。これなら遠くの会員の皆さんにも会の地道な活動のようすが手に取るように分かっていただけのではないのでしょうか。(苗圃の記録は、敢えて丸ゴシックにしてみました)会報についてのご意見など、皆様の声をお寄せください。

広報部 横山隆一